

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	”だって”に託された感情のときほぐしとその感覚 <49年度本会公開授業記録>
Author(s)	飯住, 良夫
Citation	児童の言語生態研究 , 7 : 38 - 44
Issue Date	1975-05-24
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045081
Right	
Relation	



授業レポート(その二) 49年度本会公開授業記録

“だって”に託された感情のときほぐしとその自覚

横浜市立青が谷小学校六年四組※昭和四十九年七月五日実施

飯住良夫

一、資料

本紙第三号「国語の力とは何か」を考慮するための
研究調査報告に使用した「小さい白いにわとり」
(光村一年)の資料Iにもとづいて、子どもたち
の実態調査をしたもの。特に、VI(問7)の部分
を中心に、次の事例を本時学習の教材とした。

A

に「あなたたちは、私にさんさん働かせておいて
食べようなんて……。どうしてあなたたちは、
食べるために、働こうとしなかったんですか」

B

に「なんでもやらないで、いんちぎ」
ぶ「そんなことないよ」
ね「ちゃんと、やったよ」
い「やったよ」

C

D

に「あなたたちは、何も仕事をしなかったからだ
め」
ぶ「あれとこれとは、話がちがう」
ね「あれとこれとは、話がちがう」
い「あれとこれとは、話がちがう」
に「あなたがたには、あげません」
ぶ「そんなのないよ」
ね「そうだそうだ」
い「なんでくれないのよ」

E

「あげたくないけど、みんなにパンをわけてあげるわ」

ぶ「ふん、もういらないよ」

ね「ぼく、もういらない」

い「ぼく、もうらうよ」

F

に「おいしかった」

ぶ「べつに」

ね「べつに」

い「なんとも」

(注) に↓にわとり・ぶ↓ぶた・ね↓ねこ・い↓いぬ)

二、授業記録

(学習開始のあいさつ)

T きょう、学習することは、みんながふだんよく使っている「だて」という気持ちについて考えてもらいます。この前にみんなが書いたものの中から、何人かの人のを選んで、それを材料にして考えてもらいます。

それでは、一番目のを出します。(Aを提示)最後の部分の、にわとりは「〜」、ぶたは「〜」、ねこは「〜」、いぬは「〜」というところです。

では、これを作った安藤さんに、どういう考えで書いたのか説明してもらいます。

C そーと。最初のわとりのことばについてですけども、この場合、ぶたもねこも自分たちがパンを食べたいのに、何も働こうとしないで、ただ自分がつたっているだけで、何か私たちの身におぼえがあるようなことに思えたから、それがこの場合にあると思ったから、書きました。

それから、三匹の動物は、私たちが、おかあさんや身のまわりの人に何か言われた時、自分がいやなだけで、結果的には自分が使うものなだけで、使うこと以外は全部他の人にやらせたりして、自分のめんどくさいという気持ちがあると思うから。

T ねこもいぬも同じ？

C (うなずく)

T お話がずうっと続いてきて、安藤さんは、にわとりに「〜」(資料参照ー以下資料部分は省略)としやべらせただけど、これは誰に言っているの？

C 三匹の動物たちに。

T こういうふうに言う気持ちってどういう気持ちなんですか。

C この人たちのために自分がさんざん働かされてとかやったのに、他の人たちに食べられたということに、あまりにもしゃくにさわる。

T しゃくにさわるね。

C 少しおこっているような気持ちで、三匹の動物たちにあきれているような気持ち。

T ああ、おこっていて、あきれるような気持ちね。

C だいたい同じなんだけれども、自分たちが働かなかったのに、そういう時にだけやるというのは、ずうずうしい。

T ずうずうしい。他の人は、どうですか。

C (同感者二〜三人)

T それでは、次のを考えてみよう。(B提示)

これは、久家君が書いたものです。どういう考えで書いたのか説明して下さい。

C ぼくは、そうじの時など、ちゃんとやっけてないってさわがれて：：というのを思い出して書いた。

T ちよっと整理するね。きょうは、「だて」という気持ちを考えるんだね。最初のAには、だてが入っているね。Bにはないね。ほんとにないの

だろうか。入るかどうか入れてみよう。

C 「だて、そんなことないよ」

C そうそう。(多数同感の意)

C 「だてちゃんもやったよ」

C 「だて、やったよ」

T そうすると、Bでは、だてを使ってないけど、だてという気持ちは、この中に入っていることになりそうだね。

T きょうは、このだてという気持ちを考えてほしいんだよ。

T このわとりのせりふにはどうだろう。

C 少しことばが変わってくるんだけど、「だて、何もやらないじゃないか」となる。

T じゃ、こというだてという気持ちについて説明して下さい。

C そーと。にわとりが、「何もやらないでいんちき」って言ったら、三匹の動物たちも、本当はやってないかもしれないけれど、そんなこといわれるのは、何かしゃくだったから、どうせなら言ってやれって

いうことで、「そんなことないよ」って言った。

T 「どうせなら言ってやれ」ね。(ひろきなおりでひろろ)

C 「何もやらないでいんちき」って言われてだまっ

ていたら、はずかしいというか、それもそうだなって思っちゃうからうそをついてもごまかしちゃう。ごまかしてやろうということだね。

C えーと。だまっているんじゃないかって、いいわけをしていると思う。

T いいわけだね。

C だますだまさないっていうけれど、これはだますつもりで、にわとりが仕事をしている間に、他の仕事をしているという事でやりかえしている。

T やりかえしただね。

C さっきのAの中とにているせりふはないかな。

C やっぱ、にわとりの最初のせりふが、三匹の動物たちに少しおこっている。

T にわとりのことばがにているということだね。

C それでは、Cについて考えてみよう。

C この「あれとこれとは話がちがう」には、だつてが入るかな。

C 「だつて、あれとこれとは話がちがう」となる。

T こういうだつてという気持ちってどんななんだろうね。

C いいわけというのとにているけれど、三匹の動物たちが、「あれとこれとは話が別だ」って言っているのは、にわとりがおこっていて、その話から三匹の動物たちが何と加して話をずらすとしている。

T 何からずらすの？

C その話。

T その話というのは？

C やらなかつたじゃないかっていう話。

T 他の人は、どうかな。Cは、話をずらすということだけかな？

C 「あれとこれとは話が別だ」っていうまく話をごま

かす。

C にわとりの責めからいいのがれをして、早くこの話からにげたい。

T Dについては、どうかな？

C えーとです。それは、自分たちがぜんぜんつたわなかつた。ぼくは、そう考えて書いたんだけどそれににわとりが食べる権利がないということと言ったのに対して、「そんなのないよ」というのと、「そうだそうだ」というのは、にわとりの意見に対して文句があるとかにわとりに対する反発したい気持ちがある。

C 今、気がついたんだけど、Aのとつながるような気がする。

T だつてが入るっていうことかな？ これはだつてが入るのかな？

C (ざわめき)

C 「だつて、そんなのないよ」になる。

C 「だつて、なんでくれないのよ」になる。

C ぼくは、まだ意味がはっきりしていないんだけど、入らないんじゃないかと思う。

T ちょっとちがうということだね。

C ねこの「そうだそうだ」って言っているのはどうだ。

C それは、ぶたに賛成しているということだ、だつてというのは入らないと思う。

T これと同じだつていうことだね。ぶたのせりふには入るんだね。「だつてそんなのないよ」とね。

C それでは、これについて考えればいいね。野口君は、反発・文句言いたくて反発したいからと言うんだけれど……。

C ぼくは、一回見た時には、「あなたがたにはあげ

ません」というところは、これまでの話とは(前の部分とはの意?)ぜんぜんちがっていて、次の三匹の動物たちのせりふも、今までは、だいたい三匹とも意見が一致していたけれど、これは、ぶたとねこの意見が一致して、いぬは質問のような意見を出している。ぶたの意見も、ぼくたちが、だつてと使う時のことを考えてみると、「だつて、そんなのないよ」というなんておかししい、この場合だったら、だつてということばを先につけるとおかしくてことばのつながりもないし、だつてというところと「なんで」というところとか、「そんなのないよ」というところで区切れちゃうような気がして、「そんなのないよ」というところも、だつてはつかないと思う。

T 越沢君は、だつてということばにこだわっているんだけど、ことばとしてはないけれども、気持ちとしては入るんだつていうことを、今までの学習で確かめてきたね。そういうことからするとどうなんだろうね。

C 気持ちとしては入るのかなあ？

T 入るとしたら、今までと同じかな。ちがうかな？

C 反発と同じだと思ふ。

T どうせならということと同じことだね？

C それでは、次のを考えてみよう。あとで、また、Dについて考えがでてきたら話し合うことにしよう。

T Eは、どうかな？ これは、だつてが入るかな。

C だつてという気持ちは、入るかな？

C えー。

C ちょっと……。

C ちょっと、入らないなあ……。

T 今までのとは、感じがちがうのかな。今までのとは、どういふふうがちがうのかな。説明してよ。

C 今までののは、いいわけしたり、反発したりして

ただのだけれども、これは、もう、にわとりにそんなことまで言われてもらう気がなくなってイヤな感じで、

いやしい感じがするから、ぶたとねこは今までみたく、今までは、三匹が意見が同じだったんだけれど、そういう場合はばかりではなくて、やっぱりこういう場合もあるんじゃないかな。

T こういう意見が出てきたけれども、どうかな。いやしい気持ちだっているけれど、気が何にひっかかっているんだ？

C えーと。にわとりもあげたくないけれどというので、みんな気を悪くしている。

T あげたくないけど、あげるといのは、こういう気持ちは何て言うのかな？

C ふてくされ。

T ふてくされ!!

C ばかにしている。

T ばかにしている!!

T こういうのにはあてはまることばはないのかな？

C ぼくは、あげたくないけど、みんなにパンをあげるわというの、いやいやっていうか、自分の気がむかないということで、さっき荒川君がふてくされって言ったのは、このぶたとねこのことで……

C そうそう。(同感の意)

C 野々瀬さんは、いやしいと言ったけれど、いやしいということではなくて、自分の気持ちに正直というところで、それが犬にあてはまっていて、犬が「ぼくもらうよ」って言うのは、自分の気持ちが、はっきり出ている、ぶたとねこのふてくされとちがっているところ、にわとりの気持ちがなんとなくおかし

しいなあ。

T 犬のせりふが本心で、ぶたとねこがふてくされだっているんだね。

C (うなずく)

T あげたくないけどっていうのは、何？ ふてくされっていうのは、本心を出さないことだって言うんだらう。ふてくされるのは、あげたくないけど、というにわとりの気持ちを見てとって、それにひっかかってふてくされるだって、秋山君は言ったね。この秋山君の意見については、どうだ？

C 同感。

C にわとりは、たぶんいやがらせみたいなのをやったんだと思う。

T いやがらせね。

C それで。あのー。何かね。ぶたやいなやねこより、にわとりが大きくなっちゃって、ぶたやねこは小さくなった気がして、はずかしくて、いやがらせみたいなのをやるっていうか、そういうのは、ただ食べてもおいしくないから。

T 大きくなって・小さくなってというのは？

C 大きいというのは、自分の方がえらいというようにしていることで、小さくなるっていうのは、はずかしいということ。

T いやがらせというのが出て、大きくなる、小さくなるっていうのが出たね。

T こういうのを、「もったいぶる」って言うんだよ。聞いたことがある人はいるかな。

C ー挙手三分のー

T 使ったことある人は？

C ー挙手二／三人ー

ー(不明テープレコーダーの都合)

T 他には、この目については、意見がないかな？

C ぼくは、にわとりのせりふは本心だと思ふ。理由は、いやがらせというところで、いやがらせを言えば食べたくなくなるだろうというところで(せっかく一人だけもつだつてくれなかったの一人で食べた方が、そのパンはだれもたくさん食べたいという気持ちで)いやがらせをすれば、ぶたとねこか犬とかねとも、もういらぬとふてくされてしまうと思うと思つたから。犬は、正直にもらうと言つたけれど、ぶたとねこは、いらぬってことわつたんだけれど、その時、にわとりはそのパンを食べるのは犬だけになるから、しめたと思つた。

T しめたということなの？

C ぶたとねこが。

T ぶたとねこが？

C そのせりふを言つたら、自分でもパンを食べるのがあたりまえだから……(不明)……となるから、しめたと思う。

T ふてくされっていうことについては、どうかな。

T これは、ふてくされだけ？

C (沈黙)

T それでは、次のFについて考えよう。これは、今までのとはちがうんだなあ。どこがちがうのかな。

C これは食べ終わったところから始まっているみたいだな。

T 食べ終わったところから始まったのね。にわとりが「おいしかった」と言うと、ぶたは「べつに」、ねこも「べつに」、犬は「なんとも」と言うんだけれど、これについては、どうかな？ これを書いた安藤さんに説明してもらいます。

C 前のはちがうんだけれど、最初のは、めんどろ

だったということを書いてただけで、それと対照的に書いたんだけど、こっちの場合は、食べたあとの気持ちなんだけど、三匹の動物たちはずうずうしくて、自分が働かなくて、にわとりがせっかくなれたのに、何とも思わないで、ずうずうしいという気持ちを書いた。

T ずうずうしいという気持ちを書いたんだね。

C これは、だつてという気持ちに關係があるかな？
ないかな？

C (沈黙考)

C ほくは、初め、關係なさそうだと思っただけで、「べつに」という言葉は、いいのがあっていうのも入るし、「おいしかった」ってにわとりが言ったんだから、それに反発して少しいいのがあっていうこともあるから、「なんとも」「べつに」というのはだつてということが、入っていると思う。少し話がちがうんだけど、さっきのAと、このFとを比べてみると、Aは、にわとりが働いている時は、よかつたんだけど、こういうことになるよ、少しきびしくなると、Fでは、全くお人好しで、三匹に、ちゃんとわけてやったりして、簡単に終わってしまうというとおかしいと思う。

T 「おいしかった」というのは、越沢君は、四匹の動物と一緒にパンを食べたんだつてとっているみたいだね。そのようにも受けとれるね。

C よく見てみると、にわとりが、「おいしかった？」って聞いているようにも受けとれるよ。

C うん。そう。

T 「おいしかった？」って聞いているわけね。

C にわとりは、ぜんぜん一口も食べないで。
T 食べないで……。

C 食べる食べるって三匹が言っていたから、今までのところを見るとにわとりが、この麦だれがまきまきすかって聞いても、三匹ともいやだつて言ったらしかたがないから一人でやったということを見てみると、にわとりが、だれが食べるかって聞いた時に、三匹は、食べるって言ったわけだから、どうもお人好しな感じが、前のところから受けとれるから、三匹に、パンを全部三つにわけてやってしまつて、にわとりは、ぜんぜん食べなくて、三匹が食べたあと「おいしかった？」って、聞いているようにみえるよ。

T じゃ、条件を整理しよう。にわとりが、食べている場合と食べていない場合とがあるね。どっちをとるのかな。

C 食べていない場合。

C 食べていない場合。

T 食べているってとる人いるかな？

C AーなしーV

T にわとりが、食べていないとすると、三匹に「おいしかった」と聞いたら、三匹は、「べつに」「べつに」「なんとも」って答えていることになるけれども、こういう三匹の気持ちを説明できる人いるかな？

C なんて言っているのかわかんないけど、もう自分たちは食べてしまったんだから、もう用はないって言うふうに思える。

T もう用がないよつていうふうに、適当にあしらっているわけなんだね。

C うん。

T あしらいがあるわけね。
C うん。

C もし、三匹が働くところで、いやだつてがんばっていたんだけど、ここのところで、「ああ、おいしかった」って言ってしまつて、にわとりが少し感謝しているみたいになってしまつて、自分としては負け腰みたいになるから、まだ負けたくないから、負けおしみて、そう言ったと思う。

T いやだ、いやだつてがんばつて反抗してきた。まだ負けたくないから、べつにべつに言つたんだね。

C うん。

C みんなの意見とはちがうんだけど、ほんとうは、三匹は少しおいしかったんだけど、やっぱり、そのままおいしかったつて言うと、自分のプライドとつか、三匹は見栄っぱりで自分の本心を出さないで、プライドにこだわつて、ほんとの心を出さなかつたということだと思ふ。

T プライドにこだわつて言つたわけだね。

C ちょっと、みんなとちがうんだけど、BやCやDやEとかと比べてみると、見栄っぱりというのはなくて、照れ屋つて考えたんだけど、照れ屋で、Eは、「そんなことないよ」つて言つたのは、何もやらないということ、少し認めて、少し照れ屋で言つたと思う。Oは、「あれとこれとは話が別だ」つて言つて、少し話をそらそうとしていて、Fでは「おいしかった」つて聞いたとすれば、「べつに」と言つたのは、いいのがそれのようなもので、少し照れて、おいしかったんだけど、今まで、働くのに反抗してきたんだから、少ししゃくにさわるといふのもあるんだけど、照れちゃつて、少し言にくいつていうふうに受けとつたんだだけ。

T 照れくささがあるんだね。

C どういう気持ちで言ったかというのわからないんだけど、三匹は、越沢君が、言いくいって言ったところだけは同じ気持ちだと考えて、こんどは、食べてみて、ほんとはおいしいと思ったんだけど、今まで自分たちは何も働かなかったから、ちょっと言いくいって言うことだと思ってる。

T 照れくささがあった、こだわっているんだね。

T じゃ、にわとりだけが食べたとしたら、どうなるのかな？

C えーっ。(教人)

C にわとりだけが食べたとしたら、ぶたやねこが、「べつにべつに」って言っているのは、あたりまえだと思う。

C その場合だと、にわとりが食べて「ああ、おいしかった」という感じで、ぶたはやっぱりうらやましくてしょうがないっていうことで「べつに」と言ったので、ねこもそれと同じ気持ちで、「べつに」と言ってる、犬はうらやまして「なーんとも」って反抗するっていうか、べんかいという感じだな。

T 「べつに」っていうのと、「なーんとも」というのと少しちがうと思ってるんだね。

C にわとりだけが食べて、「ああ、おいしかった」と言ったとして、ぶたとねこがどう思うかを考えてみると、ぶたとねこは、うらやまして、にわとりが食べたので、本心をかくすというか、にわとりを無視するということになると思う。

T 今までのと比べて、どこがちがうか、もっと説明できる人いるかな？

C ーΛなしVー

T それでは、いろんなのが出てきたけれども、ぶたん自分で使っているなと思うのはどれかな。

C ふてくされ。

T どういう時？

C お母さんに仕事を頼まれた時、自分がいやな時にふてくされる。

C いいのがれて、よくしかられている時に、話をそらそうとする時に使う。

T ちょっとまって。先生が、今聞いているのは、だつてという時に、今まで出たうちのどの気持ちのだつてを使っていることが多いですか、ということを知っているんだよ。だつてにしぼって考えて下さい。

C だいたい、だつてっていうのは、なんとなく、人が言ったのちがって反抗したい時に使う。

C ぼくが使うだつては、いいわけが多いんだけど、宿題があるって聞かれた時に、いいわけで、ごまかしたりする。

C ぼくは、いいわけと反発。反発というのは、身の回りと言うと、だいたいお父さんやお母さんにおこられた時に、さっきのBのぶたの「だつて、そんなことないよ」っていうのと似ているんだけど、何か反抗心があるって言いなりになりたくないという気持ちの時に使う。

T なるほど。言いなりになりたくない時ね。

C ぼくは、弁解とか、いいわけとか、反発なんだけど、反発の場合だと、お父さんお母さんに自分にとって、何かいやなことを言われた時に反発するし、弁解だとすると、もし自分がいたずらしたとか、悪いことをやって自分で認めている場合でも、お母さんなんかと言われた時、ぼくは、こういふふうにしたとかというふうがいいわけしたりする。

C 弁解の場合、弁解が通らないとふてくされる時がある。

T ちょっとまって。学習を整理しよう。今までの意見で、主に、反発・いいわけ・弁解・ふてくされ・反抗(「さからう」)が出たね。これ以外にまだある人は、いませんか。

C ー(なし)ー

T それでは、次に、これらの気持ちはどういうふうに関わり合っているのかを考えてみよう。

C ぼくの場合、いいわけと反発がつかうと思う。よくお父さんやお母さんにおこられている時、いいわけをしていてそれが通らないと、今度は、だんだんとさからうようになってきて、それでいいわけと反発とがつかうと思う。

C いいわけと弁解といいのがれが組める。弁解というのは、話が自分に悪いことで、それを自分にとって良くしようとして弁解することだし、いいわけは自分の調子のいいようにかえるということ、弁解と同じで、いいのがれも、調子の悪い話からそらそうとするから、同じだと思う。反発は、さからうということだいたいみんなが言っている通りだと思う。

C 私は、反発といやがらせがにているということかもしれないけれど、人に悪口を言われた時に、反発して、その人のいやがらせを消したいというか、そういう考えがあるから、組みあわせられると思う。

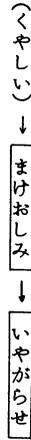
C ふてくされと反発がつかう。たとえば、集団の中で仲間はずれにされていると気持ちが正直でなくなつてふてくされて、集団に反発するというこでつながると思う。

以下 省略

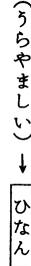
三、授業後の子どもたちが作った
だ。ってという気持ち (組み合わせ)

1. (N子)

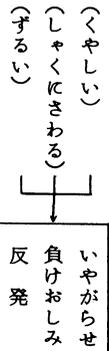
からかい



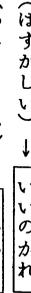
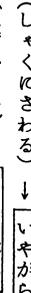
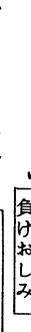
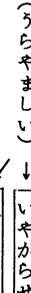
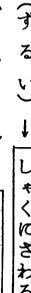
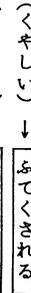
2. (K男)



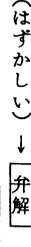
3. (M男)



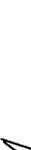
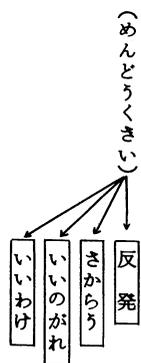
4. (K子)



5. (H子)



6. (A子)



() 内は、気持ちだけ。
[] 内は、気持ちの表われ方・態度。